

一人言半生記(一)

山口県出身の竹中さん(40)にお話を伺った。あてもなく彷徨う町の縫いの上で星を眺める日々の中、名も知らぬ老婦の世話でうどんや菓子パンを喰ひ歩きながら、鉛筆削りが得

金魚風呂で癒し

「金魚風呂」なるものがある。と聞いて訪ねた。山王一丁目の旅館明楽は戦前の木造二階建てながら、気楽できれいな日本間と豪華な家具の明るい洋室が自慢だ。浴槽に金魚が泳いでいるのを見れば、大小二つある風呂場のそれぞれに水櫃を掛け、十数匹の金魚を眺めながら湯につかるという趣向。二坪ほどの大浴場は東郷青児の絵を模したタイル画もあるモダンな造り。面白いのは



隣の小さい方。洗い場の床が一部がラス張り。その下に水櫃がある。流れるお湯越しに真上から金魚を見る格好だ。当初は多くの同業者も見学にきた名物は、当主・西村実さん(46)の義母ハナさん(77)の考案。旅館明楽を創業し、奈良の奈良池の畔に観光旅館を建てるな

社説

いつの時代も今がダメ?

時代の共有

昔は良かった話と、今の時代はダメという話。話のセツトになつて何の時代にも現れるようだ。ギリシャ時代のプラトンは「国家」という本の中で民主制に傾倒する者者達を自堕落で勝手な年長者の意見に聞かないと今の世を非難している。エジプトのピラミッドに描かれた絵文字にも「今時はダメ」とあつたという話まである。

たった二百年前には毎年飢饉におびえ、幼いときから親を離れ働くのが当たり前で、今の時代もあつたが、いつの時代も

本当に世の中はほとんどダメになつてゐるのだらうか。雇ひ止めの貧困ビジネスとせうからいふダメな「今」から

も若者は希望だ。世の中は浮き沈みを繰り返して、幸福な時代は長続きしない。その度に人は昔は良かったを繰り返すけれど、幸福な思い出話はいつの時代にも人を少しだけ幸せにする。大変だったけれど、若かった

良い時代の話を世代間で共有できれば、今といふ時代も若者は案外捨てたものでは無くな

求人廣告

新聞記者 西成男 女問はす。経験不問。山王一丁目の三三旅館内。ブレイカープロジェクト。電話 070-5046467

ガキボンから骨董まで

創業も大成も万博で賑わう大阪では、職人さん達が活躍がまわっている。手荷物預かり所が今日も大盛況だ。羽子から職人さん達は、手荷物とはいへば金庫を預け、安心してそれぞれの仕事場に出て行く。しかし中にはバクチにはまり大工道具や骨董まで預けたままにする客もいて、頭を悩ますところだが、新しく始めた創業の方が好調で、気にする暇もない。その創業というものが、子どもに大人気のガキボンで、大阪の一円で約百ものお店の軒先に四百台程を並べている。ウルトラマンや「おおかみ」といっしょのキャラクターが人気で、日々商品補充や入れ替えで大忙しだ。労働者から子どもまで喜んでもらうように、店に地元に馴染んで

北浜で喫茶店を経営していたハナさん(38)は友人のツテもあって西成の新住民となった。ビル地下にあった店は周辺の証券会社や金融関連に勤めるサラリーマンやOLで大賑わい。特に通客は多い。忙しすぎて、ついには大忙しだったことが思い出される。ところが銀行や郵便局が土曜日を休みにしたことをきっかけに客足が落ち込んだ。もうアカン!と思い切つて店を畳んで商売の立て直しを決定。住まいも移し、奥さんと共に新天地聖天下で小さな喫茶店「ストロップ」を開いた。今度は地上の店であるため店内からは一戸建の広い家も少なくない。静かな住宅街が見える。お客さんの多くは近所の主婦たちだが、聖天山公園で朝のラジオ体操を済ませたお年寄りや建築現場で働く若い職人たちがやってくるようになった。今日も道行く人の足を止めながら次第に地元馴染んで

ストロップ

北浜で喫茶店を経営していたハナさん(38)は友人のツテもあって西成の新住民となった。ビル地下にあった店は周辺の証券会社や金融関連に勤めるサラリーマンやOLで大賑わい。特に通客は多い。忙しすぎて、ついには大忙しだったことが思い出される。ところが銀行や郵便局が土曜日を休みにしたことをきっかけに客足が落ち込んだ。もうアカン!と思い切つて店を畳んで商売の立て直しを決定。住まいも移し、奥さんと共に新天地聖天下で小さな喫茶店「ストロップ」を開いた。今度は地上の店であるため店内からは一戸建の広い家も少なくない。静かな住宅街が見える。お客さんの多くは近所の主婦たちだが、聖天山公園で朝のラジオ体操を済ませたお年寄りや建築現場で働く若い職人たちがやってくるようになった。今日も道行く人の足を止めながら次第に地元馴染んで

子守地蔵

黄、この場所を井戸があらう大変な用で使われていた。あちち。幸い無事に助けた。その頃共同水道がひかれ、その井戸は不用になったが、長老が四天王寺の池にあったのをもらい、お地蔵さんをお祀りしようと思った。子ども達の事故がないようにとの祈りがこめられている。

おとこ愛の行方

連載小説 黒田信子
おとこ愛の行方。電話は切れた。夫は今夜も帰って来なかった。電話しても「仕事忙しいんだよ。」一言も話をしないうちに電話が切れた。そんな夫でもみさ子は愛しているつもりだった。だが外に恋人をつくって夫は三、四日も帰らぬこともしばしばであった。そんな夫でもみさ子は信じていた。みさ子は毎月の家賃の支払いさえ困る生活に切りつめて、自分の食事にパンすら食べない生活を送っていた。そんな友人に生活のお金を借りたが、結局返済することが出来なかった。友人のすすめもあって飲み屋に働く事になった。

子守地蔵

黄、この場所を井戸があらう大変な用で使われていた。あちち。幸い無事に助けた。その頃共同水道がひかれ、その井戸は不用になったが、長老が四天王寺の池にあったのをもらい、お地蔵さんをお祀りしようと思った。子ども達の事故がないようにとの祈りがこめられている。

おとこ愛の行方

連載小説 黒田信子
おとこ愛の行方。電話は切れた。夫は今夜も帰って来なかった。電話しても「仕事忙しいんだよ。」一言も話をしないうちに電話が切れた。そんな夫でもみさ子は愛しているつもりだった。だが外に恋人をつくって夫は三、四日も帰らぬこともしばしばであった。そんな夫でもみさ子は信じていた。みさ子は毎月の家賃の支払いさえ困る生活に切りつめて、自分の食事にパンすら食べない生活を送っていた。そんな友人に生活のお金を借りたが、結局返済することが出来なかった。友人のすすめもあって飲み屋に働く事になった。

子守地蔵

黄、この場所を井戸があらう大変な用で使われていた。あちち。幸い無事に助けた。その頃共同水道がひかれ、その井戸は不用になったが、長老が四天王寺の池にあったのをもらい、お地蔵さんをお祀りしようと思った。子ども達の事故がないようにとの祈りがこめられている。

珈琲 ストッブ

聖天下1丁目4-39

来れ!編集会議

西成なるへそ新聞
【とぎ】11月10日(日) 11月30日(土)
【とぎ】12月1日(日) 12月21日(土)
12月22日(日) 12月29日(土)
12月30日(日) 1月5日(土)
1月6日(日) 1月12日(土)

まほろば荘

はきりノす 西川文章 米子匡司 音の展覧会 11/16
#13 マートスバース ジュニア
山王 1-5-31 新・福寿社内

田村豆腐製造所

玉子豆腐 500g
フキヤキ
山王 2-13-28